

業 務 計 画 書 (案)
(平成24年度)

I. 業務の内容

1. 業務の題目

科学技術をめぐる参加型の議論の場を不断に創出するシステムの開発

2. 担当フェロー

三上直之 (北海道大学高等教育推進機構准教授)

八木絵香 (大阪大学コミュニケーションデザイン・センター准教授)

3. 業務の目的 (3年間)

第4期科学技術基本計画に明確に示された通り、社会の幅広い理解や信頼のもとで科学技術を発展させていくためには、国民の政策過程への参画や、テクノロジーアセスメント、リスクコミュニケーションへの取り組みの強化が不可欠である。多様な意見や知識を持つ市民、専門家が参画し、透明性の高いプロセスのもと科学技術をめぐる諸課題が議論され、そこで生まれる新たな認識や理解が科学技術の展開に生かされる社会を実現すること。これが、我が国のこの分野における目下最重要の課題の一つである。本課題研究は、この課題の解決に寄与すべく、科学技術をめぐる参加と議論の場が日本社会に不断に創出される仕組みを開発することを目的とする。

具体的には、①科学館、大学等の教育研究機関を拠点として、科学技術をめぐる参加型の議論の場を創出する仕組みの開発 (会議設計の手法や、企画運営のノウハウ、議論の場の設定を促すファンディングシステムの開発など) と、②多国間での市民会議の同時開催など、国際的な展開の可能性を視野に入れた事例収集や手法開発一一の2点に焦点を絞って研究開発を進める。

4. 当該年度における成果の目標及び業務の方法

平成24年度は、日本科学未来館が実施する「生物多様性に関する世界市民会議」(World Wide Views (WWViews) on Biodiversity) を対象事例として、リスクコミュニケーションや国民参画のための参加型手法と、その活用方策を研究する。具体的には、次の三つの内容を実施する。

① WWViews手法の特質と国際的な展開における課題の解明

WWViewsは、国際的に展開した市民参加プログラムとして、その規模やインパクトなどの点で最も顕著な事例である。この手法は、欧州における多国間での参加型テクノロジーアセスメントやパブリックコンサルテーションの蓄積を経て、開発されてきたものである。平成21年に研究担当者らも参画して実施された第一弾のWWViewsをめぐって、すでに手法設計の背景なども含めた様々な報告、論考が出版されている。これらの研究を、従来の参加型手法研究とも対比しながらレビューし、WWViewsという方法の特質を国際比較の視点から明らかにする。それにより、日本を始めアジア・太平洋地域を核として、同種の参加型の議論の展開を試みる上での課題の把握につなげる。

② 参加者の意見形成過程の観察と分析

カジュアルなサイエンスカフェから、コンセンサス会議のような本格的なものまで含めて、市民参加による議論の重要性はこれまで繰り返し強調されてきた。しかし、実際に市民がグループでの学習や議論などの相互作用を通じて、当該主題に関する意見をどのように形成していくのかについて、必ずしも詳細な研究はなされていない。そこで今年度は、生物多様性に関するWWViewsの日本会場での会議を対象事例に、質的な研究方法を用いてグループ討論の様子を逐語的に記録・観察し、市民参加者の意見形成過程を分析する。それと同時に、グループ討論の記録・観察から、当該主題 (今回の場合は生物多様性に関する政策) に関する市民の意見を抽出する方法を構築する。

H24. 7. 10 版

③ WWViews及びその他の事例をふまえた参加型手法の原型づくり

WWViewsは、グループ討論と投票を組み合わせた会議手法であり、生物多様性や環境問題以外にも様々なテーマにおける市民参加の議論に応用可能である。今回の実践や、その他の事例をもとに、会議設計や情報提供資料のプロトタイプを作成し、平成25年度以降、国内の科学館や大学、学校等を拠点に参加型の議論の場の構築を進める際に活用する。

II. 業務の実施体制

業 務 項 目	担 当 者	備 考
① WWViews手法の特質と国際的な展開における課題の解明	三上直之 池辺靖・佐尾賢太郎（未来館）	【研究協力者】 ・山内保典（大阪大学コミュニケーションデザイン・センター 特任助教）
② 参加者の意見形成過程の観察と分析	三上直之、八木絵香 池辺靖・寺村たから（未来館）	・中川智絵（大阪大学未来戦略機構第一部門 特任研究員）
③ WWViews及びその他の事例をふまえた参加型手法の原型づくり	八木絵香 黒川紘美・佐尾賢太郎（未来館）	・郡伸子・三浦太郎・横川修・遠藤恭平・小松美由起（北海道大学大学院理学院）